

威靈仙 CLEMATIDIS RADIX

(性状) ^{1) 15) 3)}

原植物については論議が多い。古来の正品は明らかではない。

本品はサキシマボタンヅル（先島牡丹蔓、シナセンニンソウ、シナボタンヅル）*Clematis chinensis* Osbeck 又はその近縁植物（*Ranunculaceae* キンポウゲ科のつる性植物）の根及び根茎である。

本品は短い根茎と多数の細長い根からなる。根茎は長さ 1.5 ～ 3.5cm、径約 2.5cm、表面は灰黄色で、皮部は脱落し繊維状を呈し、しばしば隆起した節があり、頂端に木質の茎の残基を付ける。根は長さ 10 ～ 20cm、径 1 ～ 2mm、外面は褐色～黒褐色を呈し、細かい縦じわがあり、折りやすく、皮層と中心柱は離れやすい。根の横断面は灰白色～淡褐色を呈し、中心柱は淡黄褐色～黄色、ルーペ視するとき、中心柱はほぼ円形で、木部の 2 ～ 4 個所がわずかに湾入している。

本品は弱いにおいがあり、味はほとんどない。¹⁾

『開宝本草』に初めて収載された。「茎方、数葉相對して、花は浅紫色である。」

中国中部から南部にかけて産出。根は黒くなくて灰色っぽい。現在市場では黒くないのを理由に嫌われている。²³⁾

(産地)

C. chinensis は中国各地。華南、安徽、浙江、江蘇、山東、湖南、湖北、四川、貴州、広東、広西、福建省などで広く産する。²²⁾

温暖湿潤な気候を好み、腐食質に富んだ石灰質壤土がもつとも適している。肥沃で水はけの良い砂質か粘土質の壤土も栽培に適している。²²⁾

東医研では韓国産 *C. chinensis* を使用。（ツムラ）

台湾産と、広東産の *C. chinensis* は別物。御影氏は台湾産をサキシマボタンヅル、広東産をシナセンニンソウもしくはシナボタンヅルと呼んでいる。当然、分類学上問題がある。

日本に入ってくるのは広西産が多い。（栃本）²³⁾

(謂)

生薬名の威靈仙とはその性質が猛、靈仙とはその効果が速やかなことをいう。『和漢三才図絵』

唐の貞元年間に、嵩陽子周君巢が著した『威靈仙伝』に「威靈仙は諸々の風を去り、十二経脈を通じ、朝服すれば暮に効があり、五臓を疏宣する。冷膿、宿水から変じた病で、微利して瀉せぬ人は、これを服すれば四肢が軽健になり、手足が微煖になり、いずれも清涼を得る。かつて商州のある人が手足が麻痺して数十年歩行不能となり、

良医が術を尽くしても、いっこうに効果が現れなかったので、家人は万策尽きてその病人を路傍に座らせ、往来の人々の中からその病を治すことのできる人を求めた。するとたまたま一人の新羅の僧が通りかかり、“この病はただ一種の薬物で治すことができるが、ただこの土地にその薬があるかどうかの問題だ”といい、家人の懇望によって自ら山に入って探した結果、その薬を採ってきた。それが威霊仙で、飲ませてみると、病人は数日で自由に歩けるようになった」と記されている。この記事は崔元亮の『海上集驗方』にある。²⁾

(選品)

『新常用和漢薬集』¹⁸⁾には

残茎が少なく、土砂のないもので、根が長く黒褐色を呈し充実しているものが良品とされている。

『中薬大辞典』²²⁾には

側根が整い、皮が黒色、肉が白色で質のしっかりしたものを良品とする。

(調製方)

水でさっと洗い、籠に入れて一時間ほど放置して水気をたらし、軟らかくなれば差込で木口切にいたします。¹⁶⁾

秋掘り上げ、茎、ひげ根を取り去り、さらに根の間に含まれる泥を良く除いて日干し。⁷⁾²²⁾ (黄酒に浸してふやかし、鍋に入れ少し炒ってから乾かしたものを酒霊仙とする)

(古典的薬効・薬能)

味：辛（鹹、本によっては） 性：温

有毒

帰経：膀胱

薬効：祛風湿・通経⁹⁾通風の要薬とし、また利尿及び通経薬として用いる。⁴⁾

『和漢薬百科図鑑』には、

威霊仙の性質は効果の早い点で、体表の風を駆逐し、体内の湿を化し、経絡に通じて痛風の要薬である。それゆえ風寒湿痺、関節不利、筋肉麻痺、筋骨痠痛すなわち神経痛やリウマチなどの疼痛に用い、また婦人の気血が滞って痛む諸証に適用される。²⁾

『中薬学の臨床応用』には、

辛・散・温・通であり性は猛烈でよく走り、肌表を走り、経絡を通じるのを特徴とする。よって表にある風湿を去るのみならず、経絡を通じて鎮痛をし、風湿痺痛を治す要薬となり、風邪の偏勝、遊走性の肢体疼痛に対して、とく適切である。この他、本品の茎葉は清熱解毒作用を持ち、近代の臨床では、咽頭腫痛、急性の黄疸型伝染性

肝炎・フィラリア、マラリアなどの証にも用いられ、一定の効果を収めた。¹⁹⁾

(用途)

関節痛・筋肉痛・神経痛などの痛みや手足のしびれ、麻痺などに用いる。単味を酒で服用して足腰の疼痛、脚気の腫痛に効果があると古医書にも見られる。四肢の関節痛や運動障害・手足のしびれなど関節・筋肉の症状に蒼朮・羌活などと配合する(二朮湯)。慢性関節リウマチや肩関節炎などに木瓜・牛膝などと配合する(舒筋立安散)。坐骨神経痛や麻痺などの神経症状に桃仁・赤芍などの駆瘀血薬と配合して用いる(疎経活血湯)。また打撲などによる外傷性疼痛にも用いる。¹⁵⁾ いずれも『万病回春』。

『和漢薬百科図鑑』²⁾では、

・・・また言語障害、まぶたの引きつれなど各種器官の麻痺による疾患、盗汗、黄疸、浮腫などに応用する。

『漢薬の臨床応用』⁹⁾では、

(1)寒痺に用いる。四肢の関節痛・関節の運動障害・手足のしびれなどの症状を伴う慢性関節リウマチに適している。

(2)魚骨が咽頭部や食道上部に刺さったときに、酢(と砂糖、本による)で水煎し、ゆっくりと飲み下す。(去骨湯)

古くは発疱³⁾剤として、神経痛、扁桃腺炎などに用いられた。民間的療法は、生の葉1～2枚をよくすりつぶし、片方の手首の内側に貼り、ガーゼを当てて包帯で軽く押さえる。約5分ほどで痛みを生じ、取り除いて発疱した部分をぬるま湯で軽く洗う。毒草なのでそれ以上放置すると火ぶくれのあとが治りにくく、皮膚炎を起こしてしまう。民間ではその他、魚毒に用いたり、便所に入れてウジの退治に用いた。毒性の少ない若葉を酢に漬けて保存食料のひとつとしたところもあるようである。

(成分)⁵⁾¹⁷⁾

アネモニン、アネモトール

プロトアネモニン(葉に含有、有毒、アルカロイド、揮発性刺激成分)、

トリテルペノイド:プロサポゲニン(Cp1～10, Cp78～108, Cp2b, Cp3a)

オレアナン系サポニン(加水分解して得られるゲニン部は hederagenin、オレアノール酸。これに様々な糖が結合したもの)

oleanolic acid、糖、アミノ酸、フェノール類など

*マイナーなのでめったに成分分析されない。

(現代薬理)^{9) 15) 17) 20) 23)}

(1)鎮痛 マウス腹腔内投与で痛覚閾値を高めた。

(2)軟化 酢浸出液では細い魚骨に対し一定の軟化作用があるようである。

(3)抗菌 白花藤からとったアネモニンには in vitro でチフス菌・腸炎菌・赤痢菌 D 群などに抑制作用が見られた。また別の種類の威霊仙 *C. discoreifolia* の水性抽出物にもプロトアネモニンを含むが、抗菌成分と考えられる。

(4)平滑筋に対する作用 *C. angustifolia* Jacq. の煎剤はマウス摘出腸管に対して興奮作用を示す。

サンリョウ

(5)循環器系に対する作用

C. angustifolia Jacq. の 50% 浸剤は麻酔したイヌの血圧を下げる。ガマの摘出心臓をまず抑制ついで興奮させる。この作用に対する浸剤の薬効は煎剤の 3～5 倍。

水性エキスは降圧作用を示し、さらに摘出尾動脈においてメトキサンによる収縮に拮抗した。²¹⁾

(6)抗利尿作用 *C. angustifolia* Jacq. の浸剤及び薬剤はマウス・ラット・モルモットに対し明らかな抗利尿作用がある。下垂体後葉ホルモンと比較した実験がある。血圧降下作用、腎臓血管の収縮と関係があるらしい。

*漢方的には利尿に期待するときがある。²¹⁾²²⁾

*茎も中国では利尿薬として利用されている。²²⁾

(7)血糖降下作用 威霊仙の浸剤は正常ラットに対して、ブドウ糖の同化作用を増強する。(大量のブドウ糖を投与した後、尿糖試験を行っても結果は陰性であった。)

(使用上の注意)

気血虚弱で、風寒湿邪のない者は服用してはならない。²³⁾

茶及び麵のゆで汁を悪む。『海上集験方』²³⁾

走鼠し(うかんむりをつける！性が猛烈で肌表と経絡をよく走る様をあらわす。)

気血を消散するので、気血虚弱の者は久服しない方がよく、用量も多すぎるとよくない。^{24) 25)}

プロトアネモニンは引赤発疱を起こす。沖縄にもサキシマボタンヅルがある。花季に雨が降ってその藪の中を通っただけで発疱するという。しかし乾燥品の、しかも根っこにプロトアネモニンがあるかどうかは疑わしい。²³⁾

(附) その他の威霊仙²³⁾、(・、◇は 22)より引用)

キンポウゲ科クレマチス属

① *Clematis patens* カザグルマ

*金沢大学の御影雅之先生が、古来の正品と推奨。資源的に手に入らない。花は青紫～白色。山で見つけたら、奇麗だから根こそぎ採られてしまう。ましてや薬にするために採ったら、すぐなくなってしまう。朝鮮半島にある。中国では東方にある。岐阜県、愛知県に自生地があるが、絶滅の危機に瀕している。

水辺に生える。大きな細胞間隙がある。根っこは黒くなくて、黄土色。

② *Clematis terniflora* DC.

タチセンニンソウというセンニンソウの仲間であり、サキシマボタンヅルの仲間ではない。中国東北地方で採れたものをとくに東北鉄線蓮 *C. manshurica* マンシュリカと呼んだが、その学名は消えた。根っこが黒くて細い。

栃本天海堂。黒いものが良品と言われているので、さがしたらこれだった。中国東北地方。

中国東北、華北、山東、江蘇省、朝鮮半島。多年蔓生草¹⁹⁾

○ *C. florida* Thunb. テッセン、鉄線連

新羅の僧があるかないかわからんといって山に入って採ってきたものはこれ。本草書にはいまでも載っているが市場に無い。根っこは黒くなくて、黄土色。

学名の *Clematis* は巻きひげを意味し、テッセンは鉄の線で、蔓が強く、針金のようなことによる。最近クレマチスとして園芸品が市場に見られ、栽培方法や、繁殖の工夫がされている。種によるものと、根による株分け方法があります。花びらと見えるものは萼で、普通4枚、時には5枚の物もある。花びらはなく、雄蕊がたくさんある。⁷⁾

・根または全草を使用。蔓生。薬効：去風、利尿、通経。用途：虫や蛇による咬傷、歯痛、角膜上にできた白斑。

○ *C. uncinata* Champ. ex Benth. 老虎師藤

台湾で使われている。大きく、根っこも太い。

・広東、広西、貴州、四川、福建、浙江、江西省。

○ *C. hexapetala* 山蓼、サンリョウ、イトクサボタン

(直立の多年草) 萼片が6で日本のテッセンに比較的近い。

中国東北。根が非常に細い。背丈が低い分、導管が小さい。

○ *C. fusca* クロバナハンショウヅル。

◇ *C. henryi* Oliv. 単葉鉄線連

・広西、安徽、浙江省。

◇ *C. meyeniana* Walp. ヤンバルセンニンソウ

・広西、福建、湖南省。

◇ *C. armandi* Franch. 小木通

・中雲南、広西、湖南、浙江省。生薬名、川木通。使用部位は木質茎。蔓生常緑低木。性味：寒淡苦、無毒。薬効：清熱利水、活血、通乳、消腫。近年「天津当帰四逆加呉茱萸生姜湯」の腎障害で有名になった。

◇ *C. paniculata* Thunb. 黄蘗子、センニンソウ

・生薬名、鉄脚威靈仙葉。葉を用いる。江蘇省、浙江省ではこの根を威靈仙に。

私は毒草とされている仙人草の根を使っている。(『薬局製剤漢方 212 方の使い方』埴岡 博、滝野行亮)

狭葉鉄線

◆ *C. maximowiziana* Franch. et Sav. 白花藤の原植物もセンニンソウと呼ばれる。

・薬効：消腫、止痛。

その他

○ユリ科の *Smilax* サルトリイバラの仲間。

Smilax scobinicaulis C.H. wright あるいは蔓生する小低木 *S.sieboldii* Miq. 和名はヤマカシユウ。清代から使われ始めた。非常に硬い。

北京周辺～西安や、山西省を中心に使われている。北京にはこれしかない。謝宗万氏は北京の故宮博物館に保存されている清代の御薬局にあった威霊仙がこのものであったと述べている。

○ゴマノハグサ科のクガイソウ *Veronicastrum sibirivum* Pennell var. *japonicum* Hara

本草正品とされてきたが、誤りである。現在市場には無い。朝鮮半島では草（ネンチョ）と書いて、カゼ薬とか別の薬物として使われる。

・生薬名、古典で言うところの草本威霊仙、現在の斬竜剣。多年生草本。性味：微苦寒。薬効：祛風湿、解毒、止痛。用途：毒虫、蛇による咬刺傷に、生の葉を湿布する。

○キク科 *Inula nervosa* Wall. 類

雲南省、昆明で使われる。本草書、市場には出てくるが偽物。

・銅脚威霊仙とも呼ばれる。性味：辛苦（辛甘、本によっては）温。薬効：風寒を去る、積滯を消す、経絡を通ず。

・*Inula japonica* 和名オグルマの頭花は、生薬名旋覆花。

○ガガイモ科のキナンクム

*市場には出てくるが偽物。

○センリョウ科のセンリョウ

中国では表面色の黒いものを鉄脚威霊仙と称している。

李時珍「その根は毎年伸び増えて、一株の根に数百條のひげがむらがつて、長さは二尺ほどになり、始めは黄黒色だが、乾けば乾黒色になる。俗に鉄脚威霊仙などと呼ぶのはそのためだ。別に数種あって、根鬚は一樣だが、ただ色の異なる黄なるものや白いものは、いずれも用いられない。」（『本草綱目』）

一般に根の黒いものを「鉄霊仙」、黄色系のものを「銅霊仙」と呼び、前者をタチセンニンソウ（コマセンニンソウ）*Clematis terniflora* DC. 後者はシナボタンヅル *C. chinensis* Osbeck に代表されるものであるが、根の色は同一種においても、生育地や採集時期によって若干異なるものである。（和漢薬百科図鑑²⁾

『和漢薬の良否鑑別法及調製方』¹⁰⁾には

鉄脚威霊仙の生は帯黄黒色を呈しておりますが、乾くと深黒色になります。なるだけ根の細くて長く色相の黒い土気のないのがよろしい。また和のカモジ様の威霊仙というのは皆仙人草の根でありますからいけませぬ。

『用薬須知』には

和漢共にあり漢を上とす。所謂鉄脚威靈仙これなり。和の九蓋草これなり。所貨のものまま仙人草も根を用ゆ、はなはだ毒あり用いるべからず。王蓋臣が郡芳譜を按ずるに和の鉄線蓮という蔓草の根これまた威靈仙の一種なり。もし漢種乏しき時代用す。

『用薬須知聞書』には

クガイ草は虎尾とも色々種類多し、伊吹産は花まばら葉短し、又一種葉に毛あるなり、是外平たくなりてケイトの穂の如ものあり、薬店にカモジ手というは皆仙人草の根なり、唐から来るもの根補足長くして色黒し、これをカモジ手といい、これは鉄線の根なり、これを鉄脚威靈仙といい、畢竟蔓生の威靈仙なり…

日本の本草書では、国内に自生しているクガイソウを原植物としつつも、中国産を良品とするという但し書きを付け加えた。これはクガイソウでは効かないことに気付いていたからと考えられる。そして、中国ではセンニンソウ類の産生する地域ではずっとこれを使ってきた。

現在中国の中部及び南部で主流を占めるものはやはりセンニンソウ属植物の根だが根が黒い。根が淡黄色のテッセンではない。宋代の終わりか、明代の初めごろから黒いものが使われるようになった。五宣にいう「腎の色は黒、宜しく辛を食すべし」すなわち「腎経の病には黒色のものを食するのがよい」とする思想に一致し、薬効を説明するのにも都合が良かったため、気味も苦から辛に変えてしまったのではないか。

23)

(参考文献)

- 1) 日本薬局方外生薬規格 1989 増補版, 薬事日報社, 東京 (1997)
- 2) 和漢薬百科図鑑[1]難波恒雄著 保育社 1993p.112
- 5) 生薬ハンドブック ツムラ p.3
- 6) 中医臨床のための中薬学 p.223 神戸中医学研究会編著, 医歯薬出版, 東京(1992)
- 7) 漢方製剤の知識[VIII]ツムラ p.198 ~ 200 三橋 博
- 9) 漢薬の臨床応用 p.168 ~ 169
- 15) 漢方のくすりの事典 p.14 米田該典・鈴木洋, 医歯薬出版, 東京(1994)
- 16) 和漢薬の良否鑑別法及び調製方復刻版 p.31 ~ 34 一色直太郎, 東京(1989)
- 17) 日本薬草全書 p.357 田中俊弘, 新日本法規, 東京(1995)
- 18) 新常用和漢薬集 東京生薬協会 p.5 ~ 6、南江堂、東京(1978)
- 19) 原色牧野和漢薬大図鑑 p.90 ~ 95、北隆館、東京(1988)
- 20) 中薬学の臨床応用 甘肅省新医薬研究所 p.212 ~ 213、雄渾社、1987
- 21) 和漢薬への招待 難波恒雄 p.20 ~ 22、東方出版
- 22) 中薬大辞典 上海科学技術出版社 小学館編 index No. 0061, 2045, 3088, 3175,

以下の本には記載無し

名医別録、新古方薬囊、平成薬証論、古方薬品考、本草備要 (版によりあつたり無かつたりするので省いた)、神農本草経

北京の威靈仙
↓
ユリ科

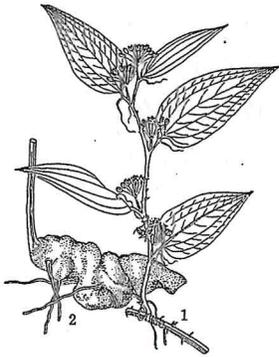
83 コンゴウシ

金剛刺 jin gāng cì [陝西中草薬]

異名) 金剛藤 (ぎんがとう) [陝西中草薬]。

基原) ユリ科の植物、短梗菝葜 (たんけいれつせつ) の根

原植物) 短梗菝葜 *Smilax scobinicaulis* C. Wright 黒刺菝葜 (くろせつせつ) と同。よじのぼ



短梗菝葜

1. 花枝 2. 根茎

性木質のつる性植物。根茎は塊状で褐色。葉は緑色で、黒褐色の扁平なとげをもつ。葉互生し、卵状長楕円形で長さ5~10cm、幅~7cm、先端は漸尖、基部は円形かわずか心臓形、全縁。葉柄の長さは7~12mmで、基部より上には巻きひげが着生する。花は雄異株で、散形花序が腋生する。総花柄は

葉柄より短い。花は白色あるいは緑がかった白色で、花被片は4枚。液果はやや球形で黒き、種子3粒を含む。開花期は5月、結実期は8~9月。低山の低木の茂みや谷間に生える。分布は、陝西、甘肅、湖北、四川、貴州など。本植物の根茎は陝西地区で威靈仙(→061)として薬用にされる。同属植物の粉菝葜 (*Smilax glauco-china* Ward. の根茎)も陝西地区では金剛刺として薬用にされる。詳細は金剛藤頭(→1785)を参照。

【採集】一年中。

【性味】[陝西中草薬] 味は苦辛、性は平。

【薬効と主治】[陝西中草薬] 風湿を除く、血を活かす、解毒する、驚を鎮め風を息める、疝瘕する、の効能がある。リウマチ性腰腿痛、小児のひきつけ、腸炎、瘡癤、瘰癧、癌腫を治す。

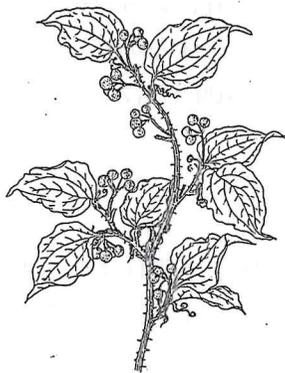
4138 ネンギョシュ

粘魚鬚 nián yú xū [救荒本草]

【異名】竜鬚菜 (りゅうすうさい) [救荒本草]、粘魚鬚草 (ねんぎょすうそう) (龍鬚) (王安卿) [採薬志]、金風藤 (きんぷとう) [簡易草薬]、鱧魚鬚 (りょうぎょすう) [湖北志]、倒鉤刺 (たうこうせき) [中薬志]、粘魚鬚菝葜 (ねんぎょすうれつせつ) [山西中薬志]。

【基原】ユリ科の植物、華東菝葜 (かとうれつせつ) (種名 ヤマカシュウ) の根茎と根。

【原植物】ヤマカシュウ *Smilax sieboldi* Miq. 多年生のよじのぼりつる性植物で、長

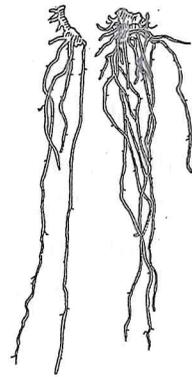


ヤマカシュウ

さは2mあまりに達する。根茎は太くて短く、根は細長くて、ほぼ湾曲している。外皮は灰褐色で、堅くてしなやかで、上面に少数の細いとげがまばらにある。茎はほぼ方形で、緑色、条があり、とげが平らに拡大しているが、先端ではほぼ湾曲しており、茎の基部に比較的多く、上部では比較的少ない。葉は互生。葉柄の基部はやや拡大し、茎を包んでいる。托葉と葉柄は基部で合着しているが、上端では分離して巻きひげとなる。葉身は薄くて革質であり、楕円形ないし三角の卵形で、長さ3~8cm、幅2~6cm、先端は漸先形で、基部はほぼ心臓形を呈するか、もしくは円形で、全縁であり、ほぼ波状をなし、主脈は5~7本、網脈は鮮明。花は単性で、雌雄異株。散形花序は腋生で、総花柄の長さは約1.5cm、小花柄の長さは5~10mm。花は黄緑色で、広い鐘形。花被は6枚で、楕円形、平らに拡大している。雄花は雄しべを6本もつ。雌花の子房は円形である。液果は円球形で、熟すと黒色になる。開花期は6~8月、結実期は7~9月。山地の雑木林の中に生える。分布は、遼寧、河北、河南、山東、山西、陝西、甘肅など

【採集】一年中。ただ、一般には春と秋の2回、根部を掘り起こし、茎・葉と泥を取り除き、日干しする。

【薬材】乾燥した根茎で不規則な円柱形を呈し、湾曲している。外表面は黒褐色で、周囲



粘魚鬚薬材

には多数の細長い根が叢生している。根の長さは約30~80cm、直径約1~2mmで、縮れてまっすぐでない、少数のさらに細いひげ根や細刺が散在していて、このとげはとがり、わずかに曲っており、さわると手を刺す。根の外表面は灰褐色もしくは灰茶褐色。質は堅くてしなやかであり、折れにくい。横断面は灰白色か黄白色で、中間に浅褐色の環紋があり、環紋の外周に小孔(導管)がある。においてはなく、味は淡い。根の長い、質が堅くてしなやかで細いひげ根の少ないものが良品とされる。産地は、陝西、河南、山西、甘肅、山東など。本品は北京、天津、陝西、甘肅、河南、河北および山東、山西の大部分の地域において、威靈仙(→061)として使用されている。

【成分】根茎はサポニン、タンニン、樹脂および大量のデンプンを含む¹。茎はチゴゲニン、ネオチゴゲニンとラクソゲニンを含む^{2,3}。

【炮製(修治)】夾雑物を選び去り、やや柔らかくなるまで水に浸し、根頭を取り除き、切って日干しする。

【性味】1[救荒本草] 味は甘。2[簡易草薬] 温、平、無毒。

【薬効と主治】風邪を去る、血を活かす、腫れを消す、止痛する、の効能がある。リウマチによる筋骨の痛み、疔瘡、腫毒を治す。1[汪連仕] [採薬書] いっさいの疔瘡、腫毒の治療には、これを湿布する。2[簡易草薬] 筋血を通す、死血を去る、腫れの痛みを消す。3[河南中薬手冊] 風邪を驅いたてる。筋骨の痛み、リウマチ症を治す。

局外生規の威靈仙

【基原】キンボウゲ科の植物、威靈仙(サキシマボタンヅル)の根。

【原植物】サキシマボタンヅル *Clematis chinensis* Osbeck つる性で、他のものから



サキシマボタンヅル

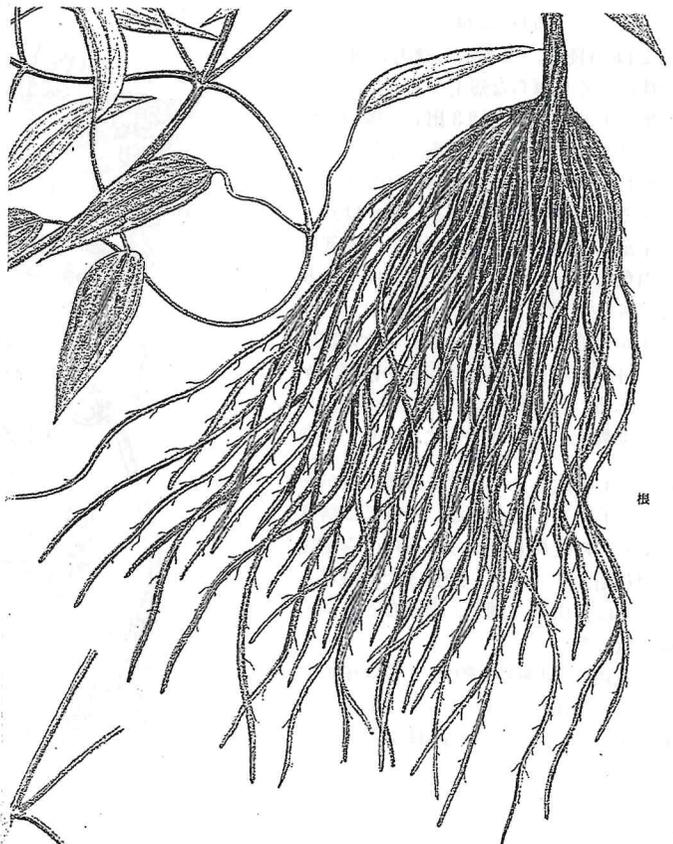
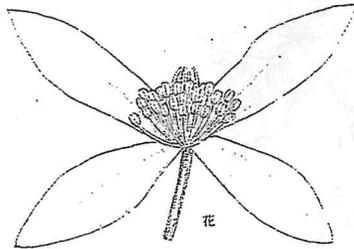
1.花枝 2.果枝 3.雄しべ 4.雌しべ 5.果実
で生育する低木。高さ4~10m。根は多数が束生し細長く、外皮は黒褐色である。茎は乾燥すると黒色になり、はっきりとした条紋が出る。若いときは白色の細かい柔毛でおおわれているが、老成すると脱落する。葉は対生で羽状複葉。小葉は通常5枚だがまれに3枚のこともあり、卵形あるいは卵状披針形、長さ3~7cm、幅1.5~3.6cm、先端はとがり、基部は楔形か広い楔形、まれに浅心臟形のものがある。全縁で上面には葉脈にそって細かい毛があり、下面はなめらかである。主脈は3本。円錐花序が腋生もしくは頂生し、長さ12~18cm。苞片は葉状である。萼片は4枚、時に5枚で花弁状、長楕円状倒卵形、白色、先端は通常、小さくとがり、外側は白い柔毛でおおわれ、内側はなめらかで無毛。雄しべは多数あり、長さは一定せず、花糸は扁平。雌しべは4~6本、心皮は分れていて、子房および花柱には白色の毛が密生する。瘦果は扁平な卵形で、細かい短毛が少しあり、花柱は宿存し、長く伸びて白色の羽毛状を呈する。開花期は5~6月、結実期は6~7月。山野、畦、道端に生える。分布は、河南、山東、安徽、江蘇、浙江、福建、広東、広西、江西、湖南、湖北、四川、貴州、雲南など。

【栽培】1気候土壌 温暖湿潤な気候を好み、腐植質に富んだ石灰質壤土がもっとも適している。肥沃で水はけのよい砂質か粘土質の壤土も栽培に適している。

172. サキシマボタンヅル [センニンソウ属] *Clematis chinensis* Osbeck (きんぼうげ科)

(先島牡丹蔓)(中)威靈仙

【分布】沖縄、台湾、中国南部に分布し、平地、山林、溪谷などに生え、日本では薬用に栽培されるつる性落葉低木。
【形態】樹高4~10m。根は細長い円柱形で数多そう生し、黒褐色。茎は明瞭な条線があり、幼時に白色の柔毛がある。葉は対生し、羽状複葉で小葉は5個、狭卵形か三角状卵形で長さ3~7cm、鈍頭か漸尖頭で全縁。花期は5~6月。茎の頂と葉えきに緑白色花を円すい花序につける。【薬用部分】根(威靈仙<ノレイセン>)。秋に根を掘り上げ、水洗い後、ひげ根を除いて陰干しにする。【成分】根にアネモニン、プロトアネモニン、アネモノール、オレアノール酸、糖類、有機酸類などを含む。【薬効と薬理】威靈仙の水浸剤は皮膚真菌、黄色ブドウ球菌、赤痢桿菌に対して抑制作用があり、これはアネモニンによると考えられる。浸剤はマウスに対して顕著な血糖量降下作用が認められ、マウスに対して腹腔注射により鎮痛効果が認められた。威靈仙は速効性鎮痛薬として、神経痛、リウマチ、腰痛などの他に言語障害など器管麻痺による疾患、黄疽、浮腫などに用いられる。【用法】威靈仙1日量6~10gを煎じて服用する。【その他】生薬の威靈仙としては他に東北鉄線蓮 *C. manshurica* Rupr., 棉団鉄線蓮 *C. hexapetala* Pall., 小木通 *C. armandi* Franch., 柱果鉄線蓮 *C. uncinata* Champ., 毛柱鉄線蓮 *C. meyeniana* Walp., センニンソウ *C. terriflora* DC. などが用いられている。



御影先生曰く古来の正品
カザグルマ代用品

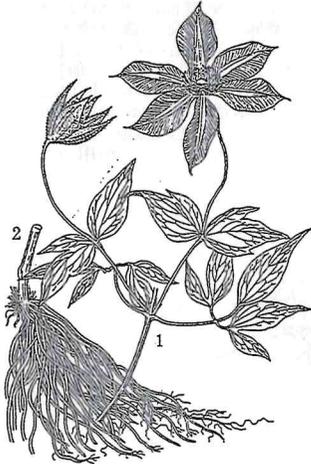
3776 テッセンレン

鉄線蓮 tiě xiàn lián [植物名実図考]

【異名】番蓮(??)・威靈仙(??)[花鏡], 大花威靈仙(??)[湖南薬物志]。

【基原】キンボウゲ科の植物, 鉄線蓮(??) (和名テッセン)の根または全草。

【原植物】テッセン *Clematis florida* Thunb.
落葉あるいは半常緑のよじのぼり性植物



テッセン

1.花枝 2.根

で、つるは細長く、4 mにも達し、質は堅く、全体にごくまばらな短毛がある。葉は対生で、柄があり、1~2回3出し、葉柄は他のものに巻きつくことができる。小葉は卵形または卵状披針形で、全縁あるいは2~3の欠刻がある。花柄は葉腋につき、長さは6~12cm、中部には対生する包葉があり、頂部に大型で白色の花をつける。花の直径は5~8cm。萼は4~6枚、卵形で、先端がとがり、縁はわずかに波形、中央には3本の太い縦脈があり、外面の中央の縦脈は紫色を帯び、かつ短毛がある。花卉はない。雄しべは多数あり、よく変異し、花糸は扁平に広がり、暗紫

色。雌しべも多数あり、花柱に糸状の毛があるものと無毛のものがある。一般には結実せず、雄しべの変異しなかったもののみ結実する。開花期は5~6月。野生または栽培される。分布は、山東、湖北、浙江など。

【採集】秋、冬。

【薬効と主治】1 [国薬的薬理学] 根は尿酸症の薬になり、痛風に用いる。また中風、積聚、黄疸を治す。2 [中国薬植図鑑] 利尿し経を通す。



薬用部分：根

177. カザグルマ [センニンソウ属]

(きんぼうげ科)

Clematis patens Morr. et Decne.

(風車) (英) Lilac Clematis

【分布】本州秋田から九州および朝鮮半島、中国に分布し、普通庭園に植栽されている落葉木質のつる性植物。【形態】茎は細長く長く伸びる。葉は対生し3出葉あるいは2回3出複葉で、小葉は卵形あるいは狭卵形で先端は鋭くとがる。花期は5~6月。枝端に1本の花柄を出し、通常紫色の大きな花を開く。花卉はなく、8枚のがくが車輪状に平開する。【薬用部分】根。根は橙黄褐色で針金状で長く、細根は少ない。秋、根を掘り、水洗いして日干しにする。よく乾燥することが必要。【成分】根にサポニンのイレイセニンを含む。【薬効】テッセンと同様に利尿整腸剤、痛風、リウマチに用いる。特に痛風によく効くといわれる。【用法】痛風には1日量8gに水400mlの水を加え、約半分煎じつめ、1日3回食後30分に服用する。連用せず2~3週間休止期間をおくことが必要。【その他】和名カザグルマは花の形が風車に似ているから。近似種テッセンとの相違は、カザグルマのがく片が8枚であるのに対し、テッセンは6枚。ヨウシュカザグルマはクレマチスまたはセイヨウカザグルマと呼ばれ、江戸時代に日本からヨーロッパに渡ったカザグルマが改良され逆輸入されたもの。カザグルマは同属のテッセン *C. florida* Thunb.によく似ており、テッセンの代用に用いられる。



(牧野739)

センニンソウ →

ホロピョウ-な威靈仙

3763 テッキャクイレイセンヨウ
鉄脚威靈仙葉 tiě jiǎo wéi líng xiān yè

〔南京民間薬草〕

〔基原〕キンボウゲ科の植物、黄薬子(芫
芎)名センニンソウ)の葉。

〔原植物〕センニンソウ *Clematis paniculata*
Thunb. つる性草本、長さ2 m、茎に筋がある。
葉は対生し、ふつうは5出の羽状複葉。
小葉柄は多くは巻いている。小葉は卵形また
は広卵形、全縁、先端には短い1つの尖頭が
あり、網脈ははっきりし、古くなると草質を
帯びる。円錐状花序は、腋生および頂生。包
片は小さく、披針形。萼片は4枚で、広がり、
矩円形。花弁はない。雄しべは多く、花
糸は扁状。雌しべは数本で、離生している。
子房と花柱には糸状毛が密にある。瘦果は扁



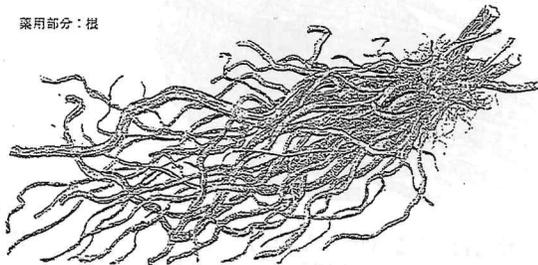
センニンソウ

1.花枝 2.果枝 3.果実

平な卵形、橙黄色、両端は狭くとがり、縁は
わずかに突起し、表面は細い白い毛で密にお
おわれ、先端には糸状の長く白い毛が密生す
る花柱が宿存する。開花期は5~7月、果熟
期は10月。山林または畦道に生える。分布
は、中国の東北、陝西、江蘇、江西、浙江、
湖北、安徽など。本植物の根は少数の地区で
威靈仙(→0061)として薬用にされる。

〔薬効と主治〕激しい歯痛を治すには、酢と
ともにたたきつぶして塗布する。

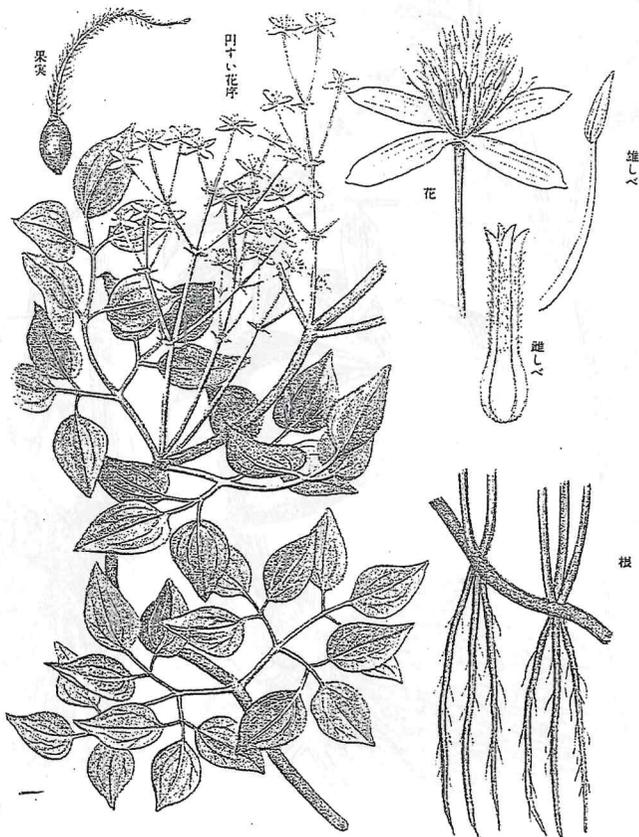
薬用部分：根



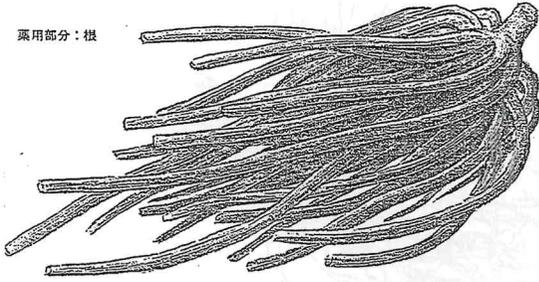
179. センニンソウ(ウマノハオトシ, ウシクワズ)
〔センニンソウ属〕(きんぽうけ科)

Clematis terniflora DC. (= *C. paniculata* Thunb.)
(仙人草) (中)黄薬子

〔分布〕北海道から九州および朝鮮半島、台湾、中国中部に
分布し、陽地に生えるつる性多年草。〔形態〕茎は木質で長
く伸び径7 mmほど。葉は対生で有柄、羽状複葉、小葉は3
~7枚で長卵形。花期7~10月。円すい花序に白色の花を
多数つける。そう果は卵形で多数なる。〔薬用部分〕根(鉄脚
威靈仙)とテッキャクイレイセン、威靈仙)。10月頃、根およ
び根茎を掘り出し、水洗いして干しにする。〔成分〕プロ
トアネモニン、サポニン、ヘテラゲニンを含む。〔薬効と薬
理〕生汁が皮膚につくと引赤して水腫をつくる。漢方処方
では威靈仙を利尿、整腸、鎮痛などに応用することもあるが、
本種を基原とするものは一般に用いないほうがよい。生葉
は古く発疱剤として、扁桃腺炎などに用いられた。〔使用法〕
民間で行われてきた扁桃腺の治療法は以下の通り。生葉1
~2枚をよくすりつぶし、片方の手首の内側にはり、ガー
ゼをあてて包帯で軽く押える。約5分ほどで痛みを生じ、
その頃から扁桃腺炎の痛みがとれてくる。センニンソウを
とり除いて発疱した部分をぬるま湯で軽く洗う。毒草な
ので片方の手首だけを5分以上放置すると火ぶくれのあとが
治りにくく、皮膚炎を起こしてしまう。〔その他〕民間では
センニンソウの毒性を利用し、魚毒に用いたり、また旧式
便所に入れてウジの退治に用いた。あまり一般的ではない
が、毒性の少ない茗葉を酢に漬けて保存食料のひとつと
した所もあるようである。



薬用部分：根



174. イトクサボタン(サンリョウ)
〔センニンソウ属〕(きんぼうけ科)

Clematis hexapetala Pall. (中)棉団鉄線蓮

【分布】中国の東北、華北、山東、および朝鮮半島、シベリアに分布し、林縁や草地に生える多年草。【形態】根茎は短い柱状で直立し黄褐色、下部には細い根が束生している。葉は対生し、羽状複葉。小葉はやや革質で不均等に2~3裂する。えき生の集散花序に白色花をつける。がく片は6枚、花弁はない。【薬用部分】根(威靈仙^{クイレイセン})。秋に、ひげ根と泥土をとり除き、日干しする。【成分】葉はクマリン類、ケンフェロールなどのフラボノイド類およびアルカロイド、精油、樹脂、根にプロトアネモニン、アネモニンのほか、サポニン、アルカロイドなどを含む。【薬効】浸剤は麻酔したイヌの血圧を下げ、煎剤はマウスの摘出腸管を興奮させる。プロトアネモニンには比較的強い抗菌作用が認められる。痛風、腰膝冷痛、脚気、マラリア、破傷風、扁桃炎、胃痛、歯痛などに用いられる。【用法】腰膝冷痛には、本品150gを細かくついてふるいにかけ、毎食前3gを温酒で調べて服用する。脚気には、粉末を1回6g、酒で服用する。【その他】本植物を基原とする威靈仙は主として中国の東北地区、華北、山東などに分布している。

薬用部分：根、根茎



175. タチセンニンソウ(コウライセンニンソウ)
〔センニンソウ属〕(きんぼうけ科)

Clematis manshurica Rupr. (中)東北鉄線蓮

【分布】中国のアムール、ウスリー、朝鮮半島に分布し、山地の低木林、雑木林の林内、林縁に生えるつる性低木。【形態】樹高は3~10m。根はそう生し、細長い円柱形、茎には明瞭な条紋があり、ほとんど無毛。葉は対生し、奇数羽状複葉で小葉は5個、卵形か三角状卵形で長さ3~7cm、鈍頭か漸尖頭で全縁。花期は5~6月。茎の頂と葉えきに白色か緑白色の花を円すい花序につける。【薬用部分】根と根茎(威靈仙^{クイレイセン})。秋に根を掘り上げ、水洗い後、日干しにするが、地方によっては地上部をつけたまま日干しにして用いる。【成分】根にトリテルペノイド系サポニンのクレマトサイドA, A', B, C, そのサポゲニンのイレイセニンのほか、ヘテラゲニン、オレアノール酸などを含む。【薬効と薬理】威靈仙の水浸剤は皮膚真菌に対して抑制作用があり、煎剤は黄色ブドウ球菌、赤痢桿菌に対して抑制作用が認められる。また煎剤はマウスの摘出腸管に対し、顕著な興奮作用がみられ、麻酔イヌに対して血圧降下作用、腎臓血管の収縮作用が認められる。その他、威靈仙の製剤はマウス、ラット、モルモットなどに対し顕著な抗利尿作用が認められた。威靈仙は鎮痛薬として神経痛、筋肉痛、痛風、リウマチ、腰痛などに用いられる。【用法】鎮痛に、威靈仙1日量4~9gを煎じて服用する。【その他】威靈仙の基原植物は主としてセンニンソウ属のものであるが、他にゆり科のサルトリイバラ属、せんりょう科のセンリョウ属、きく科のモミジハグマ属などのものも使用されている。



3175 センモクツウ

川木通 *chuān mù tōng*

[中国薬物標本図影]

〔異名〕 淮木通(???) [中薬志], 油木通(???)・白木通(???) [四川中薬志]。

〔基原〕 キンボウゲ科の植物, 小木通(???)², 繡球藤(???)² (西シロバナノハンショウヅル) の木質茎。

〔原植物〕 1 小木通 *Clematis armandi* Franch. ([植物名実図考]にある) 山木通(???)², 土木通(???)², 老虎鬚(???)²とも。つる状の常緑低木で、高さ5 m。茎は紅紫色か黄褐色で、筋がある。3出複葉で対生。葉柄は長さ3~7.5 cm。小葉身は革質で、卵状披針形か卵状長方形、長さは6~14 cm、幅は3~7 cm、先端は長くとがり、基部は円形か心臟形、全縁で主脈は3出、側脈は網状で、顕著である。円錐花序が腋生、頂生する。花序の節ごとに1対の小包片がついている。基部は長方形の鱗片で囲まれている。花は直径約3 cm、萼は4枚、白色で花弁状、長方形か倒卵

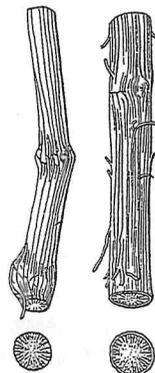


小木通

1.花枝 2.瘦果

状長方形、先端は鈍形。花弁は欠如している。雄しべは多く、長さ約5 mm。雌しべは多数で、長さ約3 mm。子房と花柱には、上に向かってまっすぐに伸びる毛がある。瘦果は扁平な卵円形で、長さ3 mm。羽毛状の毛がある。宿存花柱は長さ5 cm。分布は、広西、湖北、湖南、四川、貴州、雲南など。

〔薬材〕 1 小木通の乾燥した茎は細い円柱形で、長さ30~60 cm、直径0.8~2 cm。外皮は紅褐色か灰黄色で、細かく裂けているものが多い。木質部とは剥離しやすい。縦の筋があり、節の部分がふくらみ、葉柄と側枝の脱落した跡がある。木質部は淡黄色か黄白色。軽く、質は堅く折れにくい。断面は放射状の裂片状で、導管孔がやや密に並んでいる。髄部は鮮明である。においは弱く、味は苦い。



川木通薬材(1)

同属植物の中で木通と呼ばれ薬用にされるものは非常に多い。おもなものは、①湖南ではボタンヅルを木通としている。詳細は女萎(→2488)を参照。②四川の南川では草葉鉄線蓮(???)² *C. henryi* Oliv. を木通としている。③四川、湖南では山木通(???)² *C. pavoliniana* Pamp. を木通としている。④四川の巴県では毛木通(???)² *C. leshenaultiana* DC. を木通としている。⑤皮翁鉄線蓮(???)² *C. armandi* Franch. var. *biondiana* (Paval.) Rehd. は小木通とも称されている。⑥黄藤通(???)² *C. grata* Wall. var. *argentilucida* (Leu. et Van.) Rehd. を湖南では木通といい、四川では毛木通といい、雲南では大木通という。⑦雲南では小蓑衣藤(???)² を木通という。詳細は小蓑衣藤(→2541)を参照。

〔性味〕 [四川中薬志] 性は寒、味は淡苦、無毒。

〔帰経〕 [四川中薬志] 心、肺、小腸、膀胱などの経に入る。

〔薬効と主治〕 清熱し水を利す、血を活かし乳を通す、の効能がある。湿熱癰閉(湿熱により排尿が困難になる)、水腫、淋病、婦女乳難、月経閉止を治す。1 [植物名実図考] 小木通は小便を利す。2 [四川中薬志] 水を利す、清熱する、血脈を通す。腎臓病による水腫、急性腎炎で小便が利せないもの、湿熱癰閉、淋病、婦女経閉および乳閉を治す。

〔配合と禁忌〕 [四川中薬志] 小便過多、遺尿、精滑気弱の者および妊婦は服用してはならない。

みの見込み。 1958. 10. 9

「漢方薬で腎不全に」

名古屋の主婦2人提訴
中国から輸入された漢方薬を服用したことが原因で、腎不全(じんふぜん)を患ったとして、名古屋市区の五十年代と六十年代の主婦が八日、同薬を輸入・販売した大阪府の業者を相手

に製造物責任法(P.L.法)に基づき、総額約八千百六十万円円の損害賠償を求めると、原告代理人によると、P.L.法に基づく薬害に関する提訴は、九五年七月の同法施行後初めてという。

訴えによると、二人は九二年七月以降、九五年十二月までの間に、名古屋市内の開業医に冷えて通院。

医薬品販売業者「カーヤ」(本社・大阪府吹田市)が輸入した中国・天津製の医療用漢方薬「天津当帰四逆加呉茱萸生薑湯・エキス顆粒」(KM)の処方を受け、服用したところ、慢性腎不全にかかった。

古典

日本で使われる
ことがある

2045 ザンリュウケン

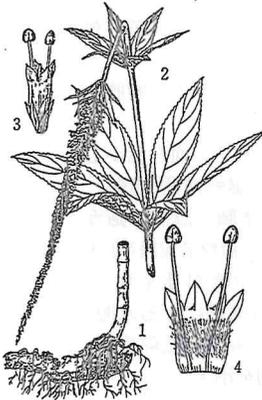
斬竜剣 zhǎn lóng jiàn

〔瀋陽薬学院報〕(3):85, 1961

〔異名〕草本威靈仙(威靈仙)〔李承祜〕〔薬用植物学〕, 狼尾巴花(狼尾巴)・九節草(九節草)・山鞭草(山鞭草)・草玉梅(草玉梅)〔遼寧経済植物志〕。

〔基原〕ゴマノハグサ科の植物, 輪葉婆婆納(輪葉婆婆納)の全草。

〔原植物〕輪葉婆婆納 *Veronicastrum sibiricum* (L.) Pennell 多年生草本, 高さ0.8



輪葉婆婆納

1.根と根茎 2.植株上部 3.花
4.切開した花

~1.5 m。根茎は横走。茎は直立し円柱形。葉は4~6枚が輪生する。葉身は広披針形か長橢円形, 長さ10~15cm, 幅2~3cm, 先端は鋭先形。基部は楔形, 縁には鋸歯がある。穂のような総状花序で犬尾状。花は小さく, 管状, 淡紫色か紫藍色。雄しべは2本。蒴果は卵状円錐形, 両面に溝がある。林や陰湿な草地, 谷間などに生える。分布は, 東北, 華北, 西北など。

〔採集〕夏, 秋。泥をとり, 切り刻んで日干しする。

〔成分〕*Veronicastrum sibirica* (L.) Pennell. var. *japonicum* Hara (クガイソウ) はマンニトール¹, ルテオリン7-β-ネオヘスペリドシド, ルテオリン7-β-D-グルコピラノシド²を含む。

〔性味〕〔東北常用中草药手冊〕味は微苦, 性は寒。

〔薬効と主治〕〔東北常用中草药手冊〕風を去り湿を除く, 解毒し止痛する, の効能がある。リウマチ性の足腰の痛み, 筋肉痛, 感冒, 流感, 膀胱炎, 肺結核咳嗽, 切傷出血, 毒蛇による咬傷, 毒虫による刺傷を治す。

古典

方經履花はオグルマ

3185 ソウイレイ

Inula japonica

草威靈 *cǎo wēi líng* 〔滇南本草〕

〔異名〕小黑菜(小黑菜)・威靈仙(威靈仙)〔滇南本草〕, 黒根(黒根)〔貴州民間薬物〕, 草靈仙(草靈仙)〔昆明民間常用草薬〕, 銅脚威靈(銅脚威靈)〔雲南中草薬選〕, 黒威靈(黒威靈)・鉄脚威靈(鉄脚威靈)〔雲南思茅中草薬選〕, 黒升麻(黒升麻)・小黑根(小黑根)〔雲南経済植物〕。

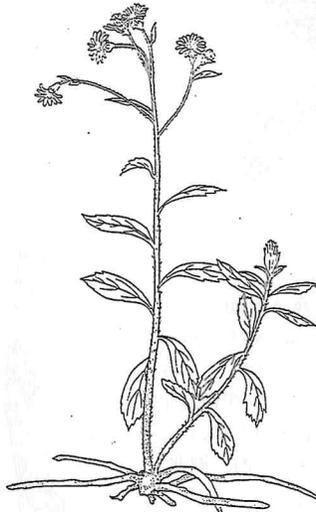
〔基原〕キク科の植物, 頭脈旋覆花(頭脈旋覆花)の根。

〔原植物〕頭脈旋覆花 *Inula nervosa* Wall.

多年生草本で, 高さ30~50cm。根茎は短い。茎は円柱形, 淡紅色ないし紫褐色で, 銹色の柔毛が密にある。単葉は互生し, 葉身は広披針形ないし倒卵状披針形, 長さ5~6cm, 幅約2cm, 縁はあらわに鋸歯状で, 両面とも銹色の柔毛で密におおわれる。頭花は分枝の頂端に単生する。花は黄色で, 総苞片は数列である。瘦果には4~5本の稜があり, とげ状の冠毛をもつ。開花期は夏。山腹, 疎林, 道端の草むらに生える。分布は雲南, 貴州など。本品は雲南では威靈仙(→0061)の代用品とする。

〔採集〕秋。洗浄して刻み, 日干しする。

〔性味〕1〔滇南本草〕味は辛苦, 性は温。2



頭脈旋覆花

〔貴州民間薬物〕味は辛甘, 性は温。

〔薬効と主治〕風寒を去る, 積滯を消す, 経絡を通す, の効能がある。胃や腹の冷痛, 消化不良による腹脹, 噎膈(のどに詰まるもの, 食道狭窄など), 胃痛, 体虚による多汗, 感冒による咳, リウマチによる脚氣を治す。1